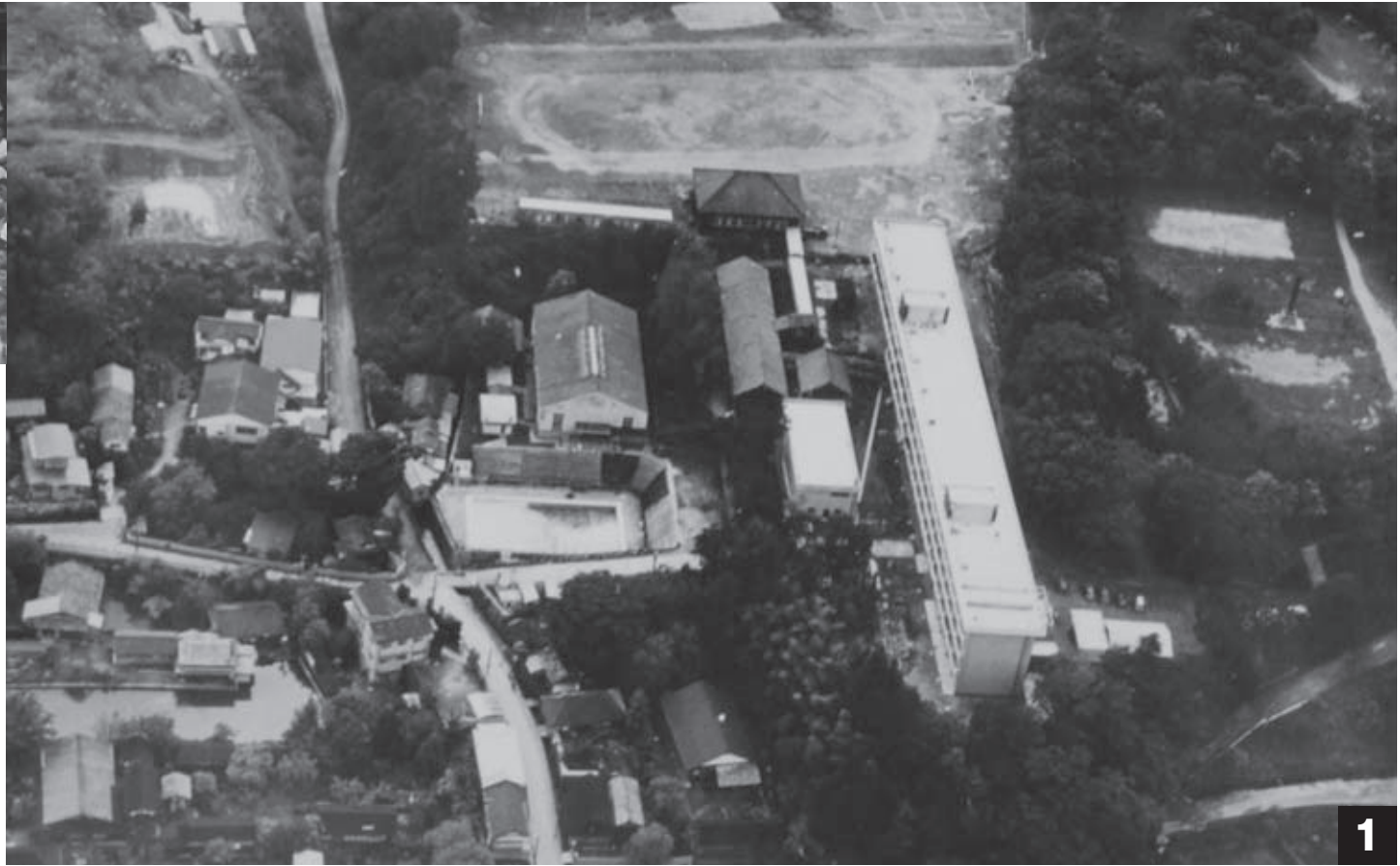
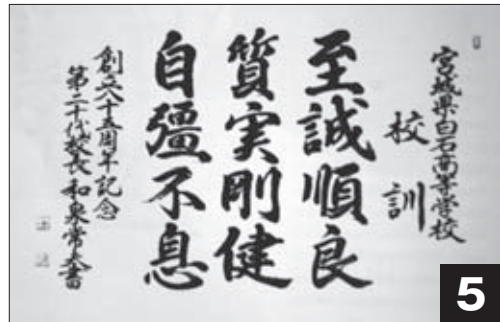
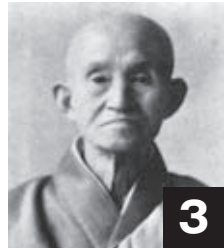


白石高校 110年の沿革		
1899	明治32	刈田中学講習会として創立
1901	34	私立刈田中学校と改称
1903	36	郡立刈田中学校となる
1910	43	宮城県立白石中学校となる
1919	大正 8	宮城県白石中学校と改称
1948	昭和23	4月、新学制に伴い宮城県白石高等学校と改称。7月には定時制課程が併設される
1953	28	野球部が東北大会で優勝し、甲子園出場を飾る
1959	34	プール落成 (60周年記念事業)
1963	38	白石高校対角田高校の定期戦が始まる
1968	43	創立70周年記念事業 生徒会館 (益岡造士館) 建設
1969	44	新校舎完成
1973	48	制服が自由化される
1978	53	創立80周年記念式典
1981	56	第2グラウンド落成
1983	58	造士館道場落成
1988	平成元	創立90周年記念式典
1991	3	白心堂落成
1999	11	創立100周年記念式典 第二屋内運動場新築
2007	19	定時制中心校 大河原商高との統合により募集停止



# 第1章 それぞれの歴史

白高110年・白女99年の歩みには、さまざまな歴史がある。その歴史は両校を育て、生徒たちの人生の基礎を築き、白石の基礎を築いた。そして、時代は変わっても創立以来の精神は受け継がれ、人々の心に生き続ける。第1章では、両校の歴史をひもといてみる。



## 宮城県白石高等学校

「学び」と「問い」を求め続けた110年  
その伝統と誇りを新生白石高校に引き継ぐ

1新校舎完成当時の航空写真 2野球部が甲子園出場を果たした昭和28年。東北大会優勝の祝賀パレードの様子 3創立者の足田運猷氏 4同じく創立者である巨理晋氏 5白高の3つの校訓 (第20代校長和泉常夫氏書) (資料提供: 宮城県白石高等学校)

### はじまり — 刈田中学講習会の創立

白石高等学校は今から110年前の明治32(1899)年に、私立の刈田中学講習会として、巨理晋氏と足田運猷氏を中心とした地元の有志者により創立された。

この設立には経緯がある。さかのほること7年前の明治25(1892)年、宮城県立の中学校が仙台市に初めて開校するなど、全国的に教育制度の整備が進められた時代であった。しかし、当時1校しかなかった県立中学校では、志願者の増加に対応できず、とりわけ郡部での中学校増設が課題となった。

この刈田郡においても明治29(1896)年、郡立分校の設置運動が展開され、県に上申書が提出された。時期を同じくして志田郡(大崎市)、伊具郡(角田市)、登米郡(登米市)も上申書を提出していた。その結果、志田、伊具両郡のみ設立が認められ、刈田郡は却下された。

この結果を非常に残念がった巨理氏は、「地方文化・産業の発展には中等教育機関の設立が必要」と、近所で旧知の仲であった足田氏に訴えたのである。こうして足田氏は人々に熱心に働き掛け、有志者を募り、ここ

に刈田中学講習会が誕生した。講師は小学校関係者が引き受け、無報酬だったとされている。その後、明治36(1903)年に公立の中学校となり、戦後を迎える。

### 戦後 — 新制高校への移行

戦後の約65年間は、時代の変化とともに、人も高校も大きく変化した。

第二次世界大戦後の教育改革によって、新学制が成立した。昭和23(1948)年に公布された学校教育法により、宮城県白石高等学校が誕生した。政治や社会の変化により、幾度となく教育課程が見直され、進学校としての地位も築いていった。

昭和40年代になると、現在の白高の面影が現れ始める。昭和44(1969)年に現在の校舎が完成した。そして、制服が自由化されたのもこの時代である。この時代は大学紛争などの学生の政治運動が盛んになった。白高においても、制帽・制服の自由化を求める動きが起きた。まず昭和46(1971)年に制帽が自由化され、2年後の昭和48(1973)年に制服が自由化された。「白高は私服」と単純に認識する方が多いかも

### 白石高等学校校歌

(昭和24年制定)  
作詞 久松 潜一  
作曲 福井 文彦  
一、不忘のふもと 水清らかに  
新生日本の 基を築く  
つとめ担いて 学にいそむ  
若人我等の 道はほろけし  
二、叡智のともしび 高く掲げて  
時代を貫く 真理求めつつ  
こころ豊かに たゆまず励み  
理想の花を ここに咲かせん  
若人我等の 道はほろけし  
理想の花を ここに咲かせん

### 旧制白石中学校校歌

(昭和2年制定)  
作歌 土井 晩翠  
作曲 島崎赤太郎  
一、六千余尺雄雄しくも  
大空しのぐ不忘の  
山は理想の面影よ  
大地をもとに向上の  
高き心を彼に見よ  
二、清き流れよ白石の  
川は何らの連想か  
宮城野信夫古へに  
近くは小野の高き名に  
かほりは高し世々の跡  
三、あ、我が徽章ばら藤の  
中の井桁の形もよし  
すうる基も名君の  
勲をしたう中学の  
誉を揚げよ若き友

### 県南の雄として — 築き上げた伝統を継承

白高の110年には、ここでは語り尽くせないほどの歴史がある。それは、生徒同士、先生と生徒、白高と地域といったつながりの中ではなく、全国で創立以来、卒業生徒数は全日制課程16,275人、定時制課程1,761人、その合計は18,036人を数える。この間、県内ばかりでなく、全国で活躍する人材を多数輩出してきた。白高創立の精神、卒業生が築き残した伝統は自らが進んで努め励む「自強不息」の校訓に集約される。そしてその意志は、新生白石高校に引き継がれる。